

# 生浜地域誌

19.12.25

第51号

発行 NPO法人ちば・

生浜歴史調査会

電話 080-

5387-2592

活動報告☆☆\*

## 歴史講座

10月26日(土) 参加者10名

「房総半島における弥生文化」

千葉市埋蔵文化財調査センター小林 嵩先生

千葉市の弥生文化は貝塚文化が広がっていた。現

日本列島、特に西日本では、従来までの想定より400年近く古い時期から、一部で外交のために文字利用をしていた人々が存在したことが明らかになってきた。



鳥取県青谷上寺地遺跡の硯

## 弥生文化研究最新ニュース

在の千葉城から千葉大学キヤンパス、都川あたりが住居跡であり加曾利貝塚も残っている。そして他県から出土している土器と同じものが見つかり当時から広く交流があったことも判る。房総半島でも2300年前から村づく

流も盛んになる。

そして、最新のニュースとして「砥石の中に墨がついていたものが見つかり」従来までの弥生文化の想定より400年近く古い時期から文字が使われていたことが分かったとのこと。

## 歴史講座

「浜御蔵とペリー来航」

11月2日(土)参加者21名

## 歴史散歩

「浜野北町を歩く」

11月15日(金)参加者15名

講師・今井公子(本会会員)...

ペリー来航で日本の鎖国は解かれた、という事は承知していたけれどその時に我が生実藩もそれなりの対応をしていたのです。

江戸時代の「御用留・ごようどめ」(幕府、諸藩の役所や町村の役人の手元で記録された公用の文書控え簿)によると、浜野村にある浜御蔵地に蔵を新築して海岸防備の陣地とした。本行寺にも生実役所の代官が出張した記録もある。そんな浜御蔵の現在を見て歩きました。

りが始まっていた。木製の農具などが見つかった。安房は黒潮による漁労が盛んとなり、上総は水が良好で農耕が盛んになる。下総は利根川の利用で物

今は住宅街となっており、御蔵の跡はみじんも残っていないものの、御蔵の土塀のカーブと同じカーブの道が現在も使用されていて確認できた。昭和の初めごろまではそれらの道沿いにはどぶ川があった、上下水道の完備された今は「暗渠・あんきよ」(地下に設けた水路)である。しかしその昔はこの暗渠が田圃に水を引く役割をしていたことも図面の流れ方で分かる。

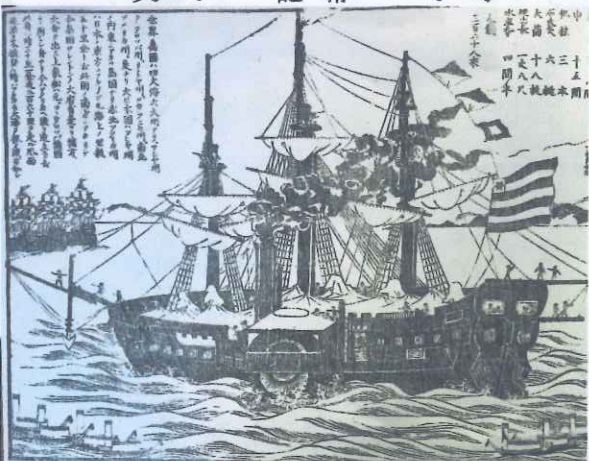
今は旧道と新道が交差する浜野北町界隈は多くの車が行きかっている。江戸へ産物を運ぶための港・河岸(かし)は浜野公園として存在しているが「解・はしけ舟」の水路も頭に描くばかりである。浜野北町の「屋台小屋」も見学して、保存されている神楽面や屋台彫刻に町民のお祭りに対する意気込みなどが大切に受け継がれていることを知りました。

散歩コースの締めは、本行寺の住職から「七里法華の歴史と教義」についてと「本行寺五百五十周年記念事業・日泰上人墓所改修工事で分かったこと」などのお話をうかがうことが出来ました。

## 講習会 「布ぞうり」

11月9日(土)

参加者19名





＝椎名上郷名主文書編纂の丸山和昭さんのお話から＝

2019年・令和元年10月13日台風15号の上陸で千葉県は未曾有の被害。

1836年・天保7年(天保の飢饉) 冷害と日照不足・大雨風に生浜地区はみまわれた。

(183年前)・・・椎名地域は甚大な被害。・・・年貢米の減免を願い出た記録がありました。

本会上梓の「椎名上郷名主文書」の中にこのことが細かく記録されていた。村々から書面でお役所様へ訴え、名主・善七が書面で報告書を届け、減免されたとのこと。詳細な数字まで判明しています。いつの時代も自然災害はつきもので、歴史に残る「天保の大飢饉」の、極めて身近な被害状況が183年後に見て知ることが出来ました。



講習会12/7.  
「折り紙」  
サンタと干支の  
ネズミを折りま  
した。



小学一年生全員  
と、けん玉・あ  
やとり・おはじ  
き、こま回しや  
めんこを楽しみ  
ました。

昔遊びを出前  
生浜西小での  
「昔遊び体験」  
12/13

その昔の この場所の事

しょうほうじ  
聖宝寺と雨降獅子(あめふりがっこ)

生浜中学校の同窓会の席で「うちの寺を建て替えるので古いものがあるんで見てもらえないか」と旧友から言われた。(2019/10/5)

うちの寺とは、椎名崎町の聖宝寺のこと。古いものとは雨降獅子の道具類のことである。

千葉市史の調査の記録としてこのことは村の古老の話としてまとめられている。その道具類がほこりをかぶったままリノゴ箱2つに納められていた。大正3年の虫干し以来そのまましまわれていたようかなり傷みが激しいものの古老の話を裏付けするシロモノが出現した。ほこりを払い汚れを落として役場の二階に広げて令和の虫干しというところである。

雨乞い祭りをやったという事であり、調査の記録は具体的な内容を残している。神主が祝詞をあげ、行列をなし、舞を踊り祈願をしたそうである。それでも降らない時は神主が切腹をしたという話もあるようだが、「獅子の巡幸には神主は参加していないので、神主の切腹はどうかと思われる」と調査記録に



は記されている。

令和の虫干しをしている最中(11/12)に生浜西小学校の関和也先生がこの町役場を見学に訪れた。そこでこの雨降獅子を一目見て驚かれた。先生が椎名小学校に勤務していたころ創立140周年記念事業の一環として学校と地域でこの「雨降獅子」《椎名小では「羯鼓舞・ガッコマイ」の再現に挑戦されたとのこと。椎名崎に伝わる雨乞い祭りの再現をするために資料集めをしたもののこの道具は見つからず口伝と想像・創作を交えて5部形式で物語として舞も音楽もオリジナルなものを完成したという事である。なんと素敵な話ではないだろうか。これがまさしく生浜の歴史なんだ!市民の歴史なんだ! 伝承されるのだ!を実感した。

今現在も椎名小では毎年十二月ごろこの「雨降獅子・羯鼓舞」を上演されております。(白井孝)

町役場で吟行会

十一月十二日に句会の一行程の来館がありました。

- 冬晴や海の匂いの駅に下車 實
- 小春日を丸ごと抱えバルコニー 菊子
- 火恋し昭和を偲ぶ会議室 完
- 秋気澄む鍵ぶら下げて古金庫 保子
- 小春日や昭和の硝子雨の跡 敦子
- バルコニーから冬の青空旧庁舎

〈未来図千葉支部 初冬の生浜地区吟行〉より